

A 26

丹波立杭陶磁器協同組合

最古の登窯復興をシンボルに「丹波焼の里」を活性化

住 所	〒669-2135 兵庫県篠山市今田町上立杭3		
電話番号	079-597-2034	URL	https://tanbayaki.com/
設 立	昭和25年12月	出資金	40,500千円
主な業種	製陶業	組合員	54人

■背景と目的

丹波焼は日本六古窯の一つに数えられ、平安末期より約800年の歴史を持つ。「丹波焼の里」には120年間使い続けている登窯がある。この登窯は現役最古で築窯技術が国の選択を受けるとともに、県の「有形民俗文化財」に指定されている。阪神大震災等の影響等により、窯体が部分的に陥没する等損傷が進んでいた。当組合は何とかこの窯を守るべく修復事業を開始。登窯復興事業を通して、築窯技術・窯づくりの技法を若手の窯元に継承していくとともに、地域団体が一丸となって地域活性化に取り組んだ。

■事業・活動の内容と手法

登窯の管理者を3窯元の共同管理から当組合に移行し、丹波焼産地の活性化に向け丹波焼の里のシンボルとして活用できる体制とした。平成26・27年度の2か年で当組合が中心となり多くのサポーターの協力で登窯の修復作業を実施。これを契機に当組合と兵庫陶芸美術館が中心となり、篠山市など地域団体が「最古の登窯復興と丹波焼の里活性化推進委員会」を発足。将来を見据えた最古の登窯の有効な利活用策の検討を始めた。修復の各段階・場面において、適切な情報発信を行うと同時に、様々なイベント・事業を企画・開催し、丹波焼の里に関心を持つ多くの人々の参加を促し、丹波焼や丹波焼の里の魅力を内外に発信した。平成27年11月21日(土)に兵庫県知事をはじめ多くの来賓を迎え、火入れ式開催。多くの作品を新生登窯で焼成することができた。平成28年も11月18日(金)～20日(日)に兵庫陶芸美術館と連携して自分の作品を焼くことができる登窯焼成を行った。

■成果

「丹波焼陶器まつり」は約10万人が来場する人気イベントとなっている。チャリティーオークションが開催され、収益金の一部は災害等復興支援義援金として寄付された。「春ものがたり」では窯元「開放工房」を開設、陶工の技を間近に観て、丹波焼をより身近に感じてもらう「丹波焼の里」PRに寄与している。そして本事業の実施が、登窯の築窯技術・窯づくりの技術を若手へと継承される大きなきっかけとなった。これらの成果は修復事業を丹波焼の里の活性化の機会にしようとして丹波市をはじめ地域団体が一体となって連携したことと当組合の地道な陶芸文化普及活動が寄与した。



▲窯元横丁



▲最古の登窯窯詰



▲登窯修復作業



▲登窯修復作業見学会

事業・活動推進のキーファクター

登窯復興事業をきっかけに「最古の登窯復興と丹波焼の里活性化推進委員会」を設置。地域が一丸となって利活用策を検討し、様々なイベントや情報提供を実施したことである。

A

地域活性化・地域社会への貢献

B

災害への対策・対応

C

組合組織による生産性向上・取組力強化